

■ シンフォニアテクノロジーが新しいWebブラウザ版の上下水道監視制御システム「SELMMC-N1」に、HTML5ベースのSL-GMS Web/Developerを採用

.NETベースのSL-GMSで開発された制御室と同じ高対話性のグラフィック操作画面をコンパクトで高速なHTML5に変換してWeb運用

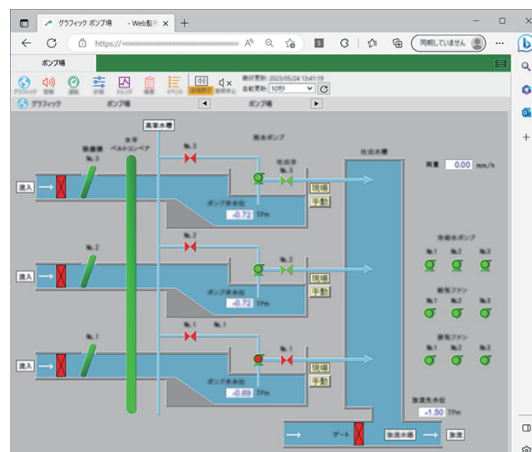


2023年7月4日 ニュースリリースより

SL ジャパンは、シンフォニアテクノロジー株式会社(以下「シンフォニア」)が開発した新しいWebブラウザ版の上下水道監視制御システム「SELMMC-N1」で、HTML5ベースのSL-GMS Web/Developerを採用していることを、発表しました。

従来の「SELMMC-N1」では、顧客のさまざまなニーズに応え、使いやすさにこだわったグラフィック操作画面とシステム固有のグラフィックエディタを、.NET FrameworkベースのSL-GMS Developer for .NETとCustom Editor for .NETを使って開発されました。

このWebブラウザ版の開発で、HTML5ベースのSL-GMS Web/Developerが新たに採用され、制御室における従来のSELMMC-N1のWindowsアプリケーションを、Webブラウザで遠方から利用できるようにしています。機器の稼働状態および計測値をグラフィックに表示する系統図をはじめ、機器の運転状態および計測値などを表示するパネルは、SL-GMS Web/Developerのコードジェネレータを使って、比類なくコンパクトで高速なHTML5に変換されてWeb運用されており、制御室におけるローカル運用と同等に負荷なくブラウザで実行することが可能です。これにより、いつでも離れた場所からパソコンの他タブレットやスマートフォンでもプラントの状況を確認でき、保守維持管理の省力化をサポートします。



(事例より) HTML5に変換してWeb運用されているSELMMC-N1システムの新しいブラウザ版

☆ニュースリリース全文はこちら: <https://www.sl-j.co.jp/0423>

制御システム(DCS/SCADA)のWeb化とクラウド運用監視ダッシュボードの開発をさらに強化したSL-GMS Web/Developer新V4.1aをリリース

制御室と同じ高対話性のグラフィック操作画面を、比類なくコンパクトで高速なHTML5コードに変換

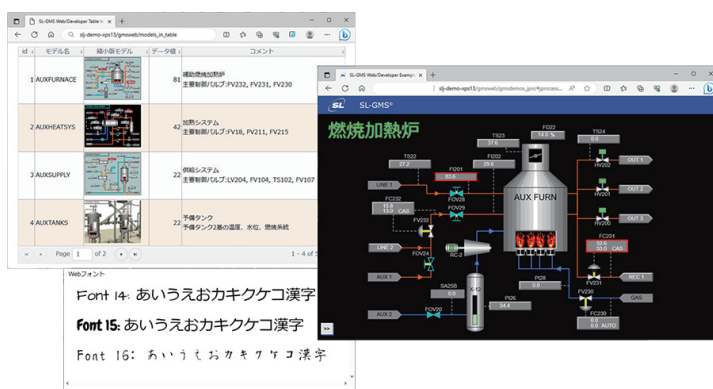
2023年7月20日 ニュースリリースより

SL ジャパンは、制御室と同じ高対話性のグラフィック操作画面を比類なくコンパクトで高速なHTML5コードに変換してWeb運用できる、SL-GMS Web/Developerの新バージョン4.1aをリリースしました。

2020年秋に待望のHTML5版SL-GMS新製品としてリリースしたV1.0a以降、V2.0aとV3.0aにおいて、組み込みグラフとテーブル、詳細画面へのドリルダウン、複数の画面レイヤ、地図上に動的オブジェクトをインスタンスなど多数の新機能で監視ダッシュボードの開発を支援強化し、V4.0aでオーバービュー小窓やブリンク機能など、従来のSL-GMS製品(C++, Java, .NET)による開発でよく実装される多彩なグラフィック機能を追加して制御システム(DCS/SCADA)のブラウザ運用を強化しました。

今回の新バージョン4.1aでは、テーブル列にSL-GMSモデルを表示、テキストとオブジェクトの輪郭をグロー表示で強調する属性、Webフォントのサポート、パネルのコンテンツを印刷できるメソッドなど、細部に至って小回りが利く下記の新しい機能の数々が追加され、制御システム(DCS/SCADA)のWeb化とクラウド運用監視ダッシュボードの開発をさらに強化しています。

☆ニュースリリース全文はこちら: <https://www.sl-j.co.jp/0523>



SL-GMS Web/Developer (HTML5) 新 V4.1a 新機能 [例]: テーブル列に SL-GMS モデル表示 (左上), グロー表示 (右), Web フォント (左下)

日立製作所が、電圧・無効電力オンライン最適制御システム「OPENVQ」のグラフィックな可視化ダッシュボードの開発で、RTViewを採用

リアルタイム監視・制御に必要なコンテンツリッチで高対話性のグラフィックダッシュボードをカスタム構築し、RTViewのディスプレイサーバで高速にWebブラウザ運用

2023年8月22日 ニュースリリースより

SL ジャパンは、株式会社 日立製作所(以下「日立」)が、電圧・無効電力オンライン最適制御システム「OPENVQ (Optimized Performance Enabling Network for Volt/var(Q))」のグラフィックな可視化ダッシュボードの開発で、米国 SL 社製 RTViewを採用していることを発表しました。

OPENVQ 実証システムは、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の実証事業において送電ロス低減によるCO₂削減効果をJCM(二国間クレジット制度)でクレジット化することを目指し、タイ王国発電公社(EGAT)の北東給電所で運用中です。

RTView で開発されたメイン画面には、監視・制御の対象となる変電所全体をグラフィックにアラート表示する「対象エリアマップ」と、エリア全体の総需要や送電損失などの主要な指標がグラフ表示されます。そして、アラートが出ている特定の変電所をクリックすると、その設備詳細の状態変化やログをグラフとテーブルで確認できる「変電所画面」を表示します。



HITACHI
Inspire the Next



(事例より)「メイン画面」(左)で、対象となる変電所全体をアラート表示する「対象エリアマップ」上でアラートが出ている変電所をクリックして詳細を表示する「変電所画面」(右)

(注)プロトタイプデモ用に RTView で構築した OPENVQ の画面で、実際に運用されている画面とは異なります。

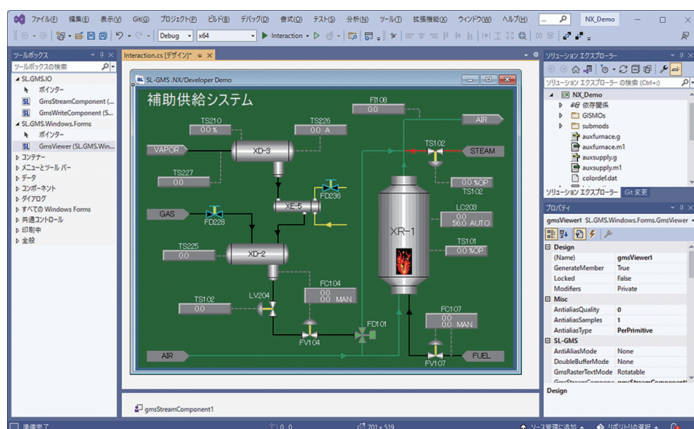
☆ニュースリリース全文はこちら: <https://www.sl-j.co.jp/0623>

SL-GMS .NX (.NET 6) V1.0a 新製品の V2.0a で、次の長期サポートバージョンとして Microsoft 社が 2023 年 11 月にリリースする予定の .NET 8 に対応で開発中

昨年の 2022 年 11 月にリリースした、SL-GMS .NX/Developer と .NX/Custom Editor V1.0a は、最初の長期サポート(LTS)バージョンである Microsoft 社の新しい .NET 6 プラットフォームにいち早く対応した「新製品」です。

方向性がまだ流動的だった .NET 5 で開発を始め、.NET 6 プレビュー版、リリースキャンディデートを経て、2021 年 11 月リリースの .NET 6 で完成させたものですが、さらに、今年 2023 年 11 月に Microsoft 社よりリリースされる次の長期サポート(LTS)バージョンの .NET 8 を、次期 SL-GMS .NX バージョン 2.0a でサポートする予定で、現在そのプレビュー版を使って開発を進めています。

SL-GMS のモデルと API は、これまでどおり互換性を維持し、ベースが .NET Framework から新しい .NET 6 プラットフォームに変わるだけで、SL-GMS の使用は透過的です。.NET Framework 版の SL-GMS と同様に、.NET 6 上の Visual Studio を使って開発(右図)し、画面を閲覧操作する Viewer コントロールとカスタムエディタである Editor コントロールを提供します。また、ドキュメンテーションでは .NET Framework 版 SL-GMS から .NET 6 版 SL-GMS への「移行ガイド」をご用意しています。



Visual Studio 2022 における SL-GMS の .NET 6 ビューワーコントロール

☆「.NET 6 版 SL-GMS .NX 新製品のハイライト」デモビデオ(2分17秒):

<https://www.sl-j.co.jp/0422>

Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0061 東京都港区北青山2-12-8 BIZ SMART 青山
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2023年9月25日発行 通巻 76号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。